

教会設立30周年に向かう教会の姿勢

立石章三

今年発行された昨年の年報をご覧になって、皆様はどのような感想を持たれたでしょうか。主な出来事についての私の感想は巻頭言で、また今年の主な行事については、年報の22頁をお読みください。特に昨年は、教会設立25周年記念事業をするために、建築委員会ができたことは大きな喜びです。

今年の年報で新しい点は、巻末に「横浜中央教会の歴史」という図表を添付したことです。これを見ますと、私が赴任した1997年以後の16年間に、この教会の現年限齢会員の75%に当たる38人が会員となられたことが分ります。会員になられて10年未満という方が、半数以上の28人もおられます。つまり教会は今年設立26周年ですが、構成員の大部分の歴史は非常に若いということです。若さはチャレンジ精神を持てるということです。今年は何事にも積極的に、特に新しい試みに挑戦したいものです。昨年は天王町駅に看板を出すという新しいチャレンジをしました。今年教会堂増築という全く新しい大仕事のチャレンジが持っています。しかし現段階では、資材の高騰などで予算をかなりオーバーしそうで、建築委員会はこれから苦労されるでしょうが、皆で喜んでこの企画を成し遂げましょう。

現在の長老たちは全員、1988年の教会設立式を体験してこられた方々ですから、改革派教会の信仰のスピリットを良く理解して、この教会を支えて来られました。今後の教会の課題は、長老たちがこのスピリットを、次の新しい役員たちを育てて継承させていくことです。それは横浜中央教会が目指している「改革派信仰の理想を追求し続ける姿勢を持った教会」（横浜西口教会設立宣言）を建て上げることです。「改革派信仰とは、信仰と生活のすべての領域において、常に神を中心とすること」ですが、それはしばしば抽象的に考えられる傾向があります。そこには具体性がなければなりません。

私たちはいつでもこの世の習慣や価値観、また惰性に流されてしまいがちですが、礼拝ですら、この惰性によって流されることもあります。昨年秋の教会学校みかん狩りの日には、出発時間から逆算して礼拝時間を短縮しようとして、神様の前に醜態を表し、小会で反省会をした二ともありました。いつでも新鮮な気持ちで礼拝を守り続けるには、日ごろの信仰生活のおり方が重要です。

「礼拝厳守」は横浜西口教会時代から常に叫ばれてきたことですが、長く礼拝を休む方が増えてきたことは残念なことです。礼拝出席は、一度休む時には随分抵抗感がありますが、欠席が二度三度となると慣れてしまって、礼拝欠席しても心が麻痺して痛まなくなってしまう。そうなったら赤信号です。礼拝出席を当たり前のこととして習慣付けるよう心掛けましょう。また病気などでやむをえず欠席される方は、ご一報くださり、お祈りの課題として皆でお祈りできるようにしましょう。今年礼拝は手術を控えています。健康が回復したら、ぜひ家庭集會を再開したいと頻っています。この点でも皆様にご協力いただき、伝道に励みたいものです。

チーム オリーブ

K. K

私がオリーブの会の会長を引き受けてから、今年で6年となります。今年はおリーブの会にとり頑張らなければならない年です。

2011年3月11日の東日本大震災から3日後の礼拝の後、立石先生から「東京恩寵教会から東部中会婦人会、総会の当番教会の依頼がきているよ」と伝えられました。

その時は地震、津波、原発事故と続き、不安で一杯の時でした。今はそんな事は考えられない、というのが正直なところでした。まして会長をそろそろ交代しようと思っていた頃でした。長い間、専業主婦である私にとり中会婦人会の総会の当番教会になるという事はプレッシャーを感じる事でした。しかし立場上、無視する事は出来ませんので次週の例会の時に姉妹達に相談しました。積極的に引き受けようという雰囲気ではありませんでしたが、ひとりの姉妹が「やってみよう」と声をあげてくれました。

今回、断っても断り続ける事は出来ないとみんな思ったのでしょうか。

あの日から3年、9月30日と総会の日には決まったのですがまだ会場は6か月前の抽選の為に決まっていません。でも準備は少しずつ進んでいます。総会の後に午後から開かれる修養会では「ガンビアに遣わされてーガンビア宣教報告と異文化理解」というテーマで、休暇でアフリカから帰国される川島利子姉妹をお呼びしています。楽しみです。

女性が何か新しい事をする時は男性と違った大変さがあります。体調の悪い家族のお世話、まだ手のかかるお子さんのお世話、仕事と家庭の両立などです。役員をお願いするのも気の毒でしたが皆さん協力してくれる事になりました。

総会が終わっても次回の当番教会との引き継ぎ、会計監査、報告書の作成などを年内にしなければなりません。

例年より忙しい年となりますが、会員のご主人にもパソコン作業を助けられる等と嬉しい事もあります。

最後になりましたが私達チームの強力なメンバーをご紹介します。イエス様です。 ♪われ弱くとも 恐れはあらず♪

壮年会のこと

壮年会では、第三主日に学びをしています。月ごとの担当者がリードしながら、内容を整理したり参加者で分かち合ったりする形で進められます。

昨年は、石丸新先生の『聖書生活のいのち』をテキストとして選びました。けれど「読んでなるほどと思うのだが、学びのテキストとしては扱いにくい。」といった声が多くありました。

今年は二本立てです。一つは、「特にテーマを定めず、それぞれが自由に、関心や問題意識をもっていることを取り上げる。」

これまでに、テキストを使った学びが終わってからの雑談がよい話し合いになっていたり、五十嵐兄が「ちょっとおもしろいものがあったから持ってきました。」と資料を用意して説明してくださったり、といったことがありました。それで、ならばいっそテーマは個々に任せよう、と決めました。壮年会で初の試み。さて私は何をテーマにしようか… しばらく考えることになりそうです。

もう一つは、『改革派神学の光と影』です。十ヶ月かけてそれぞれが読み、最後に立石先生にお話しをしていただくことになりました。この本は以前全員懇談会の中で読み進めたことがあります。先生が薦めているものだし、ぜひ最後まで読もう、というわけです。まとめの会は10月の第三主日を予定しています。壮年会以外の方もご都合がございましたらぜひご参加ください。

賛美

私たちの賛美を喜ばれ受け入れてくださる神様に、礼拝に集われた方々と共に精一杯の賛美を捧げたい。壮年会が男声パートを担い、礼拝賛美を豊かにすることを考えています。

交わり

以前、「階段のペンキ塗り&バーベキュー」の企画を行ったことがありました。(私は参加できませんでしたが)「今年も何かやりましょう。」ということで、いろいろ話をしました。実行できるかまだ不透明ですが、一つ検討していることがあります。「教会学校の子どもたちを招きたい。」とも考えています。果たして実現できるでしょうか。

遠くに住んでいる兄弟、海外に赴任している兄弟、しばらく会わずにいる兄弟。毎週共に礼拝を捧げていても、執事の方々は、一緒に学んだりゆっくり話をしたり、という時間を持ちづらい状況にあります。

「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。」(1コリント 12 : 26)
体の各器官である私たちが、教会で、家庭で、社会で担っている主の働きがあります。それらをふわさしく果たすために、互いに祈り合いつつ歩んでいけたらと願っています。

N. K